

第二十二回
貴族院

鑛業抵當法案特別委員會議事速記錄第一號

明治三十八年二月十八日(土曜日)午後一時四十五分開會

○都筑馨工八君 昨日委員會ノ下調査ヲセヨト云、コトヲ委員會ノ御命令アリマシ、三人寄リマシテ出來ルダケノ調査ヲ致シタノデゴザイマス、政府委員モ御出席下サレマシテ……鑛山局長モ法制局長官モ又今日御出席ノ兩名ノ政府委員モ御出席ナセラマシテ出來ルダケ充分ニ練ツメ積リデゴザイマシテ御覽ノ通リノ修正案が出來マシタ、此修正案ハ總ア御手許二行ニテ居ラウト思ヒマスガ朗讀シマセウカ、ソレニハ及ビマセヌデスカ

○委員長(子爵曾我祐準君) 御朗讀三ナリマセヌデ宜シウゴザイマス

〔參照〕

第一條ヲ左ノ如ク改ム

第二條 鑛業財團ハ左ニ掲タルモノニシテ鑛業ニ關シ同一採掘權者ニ屬スルモノ

ノ全部又ハ一部又以テ之ヲ組成スルモノトニ得
一 売業權

二 土地及工作物

三 地上權及土地之使用權

五十四
賃貸ノ承諾ノルトキハ物ノ賃借權
機械、器具、車輛、船舶、牛馬其ノ他

一第四條第六項ヲ左ノ如ク改ム

前二項ノ規定ハ錯誤ニ因リ鑛業ノ出願カ許可セラレタル場合又ハ鑛業カ公益

ニ害スルモノハト認メアレタル場合ニ於ケル採擷權ノ取消ニ關シテハ之ヲ適用セズ

第十一條 採掘權者又八法

者カ惡意ヲ以テ鑛業財團ノ價格ヲ減損スヘキ行爲

八三年以下人重禁銀交八二

○都筑馨六君 サウ致シマスト此修正ノ主意ダケヲ申述ベルコトニ致シマスガ、先ニ修

正ト申シマシテモ此四條ノ末項、ソレカラ附則ノ前ニ一箇條、十二條ヲ加ヘマシタノデ、

書イタノアリマシテ大シタ修正デハナ、此第二條ノ修正ガ一番重モナル修正デアッテ併シ此二條ノ本文、第一項ト申シマスカ本文ト申シマスカ鑛業財團ニは僅カノ文字ヲ入レタニ過ギマセヌ、ケレドモ是が本案ノ骨髓ニナツテ居リマス、餘程ノ大修正ニナツテ

貴族院礦業抵當法案特別委員會議事速記錄第一號

明治三十八年二月十八日

(二七)

ノ全部又ハ一部「ト云フ此」全部又ハ一部「ト云フ字ヲ入レマシテ「ヲ以テ之ヲ組成ス」ト云フノヲ「ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得」ト云フコトニ致シマシタ、ソレデ主義ヲ全ク改メタト云フコトヲ示ス積リデアリマス、ソレカラ此「同一」ト云フ字ヲ上ヘ入レマシテ趣意ハ此主義が改タカラ先ヅ其財團ニ就テハ工場抵當法ニアル財團ノ規定ヲ準用シテ差支ナイ、所ガ獨リ工場抵當法ノ八條ニ至テ原案ノ趣旨モ少シ工合が惡ルイカラ工場抵當法ノ委員デ之ニ修正ヲ加ヘタ、其修正タルヤ鑛業抵當ニハドウシテモ適用ノ出來ナイ修正デアル、ドウ云フ修正カト申シマスルト「工場ノ所有者ハ抵當權ノ目的爲ス爲一箇又ハ數箇ノ工場ニ付工場財團ヲ設ケルコトヲ得」ト云フ原案ニ「數箇ノ工場カ各別ノ所有者ニ屬スルトキ亦同シ」ト云フ修正ガ這入ツタ、所ガ工場抵當ノ原案ノ趣意ヲ聞イテ見マスルト、一ツノ鑛業權者ニ就テヤル積リデアッタ、所ガ段々論シタ結果、第八條ノナンダケハ是非必要タ、一人ノ鑛業權者ガ幾ラモ鑛山ヲ持ツテ居ツタガ、ソレヲ合セテ一ツニ引括メテ一ツノ財團トシテモ宜イデヤナイカ、ソレガ出來ルヤウニナツテ居ラスト或ハ因ル場合ガアルカモ知レヌ、ソレニ反シテ此數箇ノ工場が各別ニアル、數箇ノ採掘權者ニ屬スルトキニ、之ヲ一ツニ數箇ノ財團ヲ設ケルト云フ趣旨ニ反對シテ來ルト云フ、是ハナゼカト云フト一ツノ財團トシテモ宜イデヤナイカ、モ鑛山ヲ持ツテ居ツタ、又他人ノ所有物ヲ財團ノ中ニ引括メルコトハ出來ナイ、鑛山ヲ持ツテ居ツタ他人ノ物マデモ、持主ノ違ツタ一ツナリニツナリノモノヲ一ツニ纏メマスレバ、他人ノシカ無クナシテ來ルカラ之ヲ許サヌト云フ精神デアルト云フコトニナシテ來マシタ、就中鑛業ニ就テハソンナコトヲサセル必要モ無シ、又ヤツテハ不都合デアルト云フ所カラ、八條ノ一項ハドウシテモ應用セヌ方ガ宜イト云フ主義ナシテ、ソコデ「同一」ト云フ字ヲ入レマシテ、修正ニナツタ外ハ明ニ除ク積リテアッタ、適用セヌ積リデアリマス、ソレカラ原案ノ方ハ數箇ノモノガ一人ニ屬シテ居ル、數箇ノ鑛業權が一人ニ屬シテ居ルトキハ宜イカラ、ソレハ宜シトイ云フコトヲ明ニ書カズシテ「同一」採掘權者ニ屬スルモノノト云フ「モノ」ノ其邊ヲキカシテ讀ンデ貰フタナラバ、屬シテ居リサヘスレバ幾ラアッテモト云フ風ニ解釋が出來ルカラ、其解釋デアルト云フコトヲ速記ニ遺シテ此儘デ宜イ、朱書ハ此所ニ適用ガ出來ナイト云フコトヲ明ニ記シテ置カウ、サウシマスレバ二條ハ此儘ニシテ置キマシテモ大抵他ノ箇條ハ準用シテ差支ナイ、獨リ財團ニ關スル刑罰ノ規定ガ設ケテアル、財團ニ關スル規定ヲ準用スルト書イテアレバ刑罰ノ規定マデモ準用スルカ否宣イガ、獨リ準用デ間ニ合ハヌノガ此所ニ附加ヘマシタ十一條ノ刑罰、是ハ後ニ申上ゲ例モアルヤウニ覺エテ居ル、旁々他ノ規定ハ準用デ勤カガ、一條ノ本文ヲ斯ウ更ヘテ仕舞ヘバ準用ノ出來ヌモノハ除イテ仕舞ツタカラ、他ノ規定ハ二條ノ準用ヲ受ケテ居ル、カラテゴザイマス、第二項ニ於キマシテ「土地又ハ水ノ使用權」ト云フ字ヲ削リマシタ、サウシテ之ヲ「土地及工作物」トシマシタ、土地ノ使用權ダケハ第二項ノ中、水ノ使用權ハドコヘモ入レマセヌ、何故ニ水ノ使用權ヲ削ツタカラト云フト今マデノ法律ニ一ツモアリマセヌ、是マデアリマスルノハ鑛業法ニマレ土地收用法ニマレ水ノ使用權ト云フ字ハ殊更ニ

避ケテ「水ノ使用ニ關スル權」トスウボンヤリヤツテ居ル、今度ノ法律デ始メテ「水ノ使用權」ト明ニ出テ來ル、是ハ無論法律家ガ解釋シテ行ケバ、民法上ノ使用權ダケヲ指スノデアラウケレドモ、今マデ之ヲ使用使用ト云フテ普通ノ言ヒ來リテ水ノ上ヲ船ニ乗ツテ行クノモ使用權、ソレカラ水泳場ヲ拵ヘルノモ使用、ソレカラソレヲ一人デ用井テ專用シテ風ニ水ノ使用ト云フ字ニ就テハ餘ホド習慣デ色ニ用井來ツテ居リマスカラ、新三「使用權」ト云フ字ヲ設ケテ説明ヲ致シテ置キマセヌ時ニハ、總テ是マデ仕來ツタ所ノ水ノ使ヒ方ガ權利ニナルカノ如ヰ疑ヲ起ス虞レガアリマスカラ、大變危險デアリマス、又之ヲ總テトルト云フ趣旨ニ反對シテ來ルカラ之ヲ許サヌト云フモノデハアリマセヌ、ドウ云フモノデアルカト云フコトニ致シマスルト、川上テ鑛業ヲ起ス時ニ川下ノ者ハ今マデノ水ヲ汚シタルカ損害賠償ヲ起ストカ、今マデ使ヒテ居ツタ所ノ水ノ分量が減ツタカラ損害賠償ヲ寄越セ、又ハ今マデ使ヒテ居ツタ水ノ溫度が高マシタ爲ニ耕作ガ出來ナイカラ寄越セト云フヤウナ苦情が種々百出スルコトナルト、鑛業其モノモ非常ニ因ル、而シテ此所ニ書イテアリマスル目的ハサウニ云フモノデハアリマセヌ、ドウ云フモノデアルカト云フト、所謂水ノ使用ニ關スル權利ト云フモノヲ收用法テ徵發シテ行ケルモノデアリマスルカラ、ソレヲ保護シヤウ、ソレハ何デ行ケルカト云フト多クノ場合ハ地役權、用益權デアルノデゴザイマスカラ、ソレデ大抵含ムノデアリマス、含ムノミナラズソレニ籠メル所ハドウスルカト云ヘバ苟モ水ヲ使ノニハ工作物ナシデ使ヘルモノデナイ、水ヲ泳グトカ其他工作物ニ水車ガ要ルトカ或ハばいぶガ要ルトカ堵ガ要ルトカ何カシラ要ル、其工作物ハ明ニ他人カラ妨害サレタ時ノ權利ハ保護サレテ居リマスカラ、從ツテ水モ他人カラ妨害サレヌト云フコトダケハ出來テ來ル、地役權ト工作物トシテ置ケバ宜イガ、斯ウ云フガ區々ニナツテ困リマセウト思ヒマス、旁々此四ツノ理由デ水ノ使用ト云フ字ヲ削リマシタ、而シテ土地ノ使用權ニ至ツテハ工場抵當法ニ削ツテ何故ニコツチノ方テ殘シテ置イタカ、是ハ段々政府委員カラモ注意ガゴザイマシテ、土地ノ使用權ト云フモノハ工場ノ方ニハ餘リ無イケレドモ、鑛業ニ至ツテハ他人ノ土地ヲ使用スルコトガ、大變ニ多イ、ソレ多クノ場合ハ地役權デアル、ケレドモ地役權デナニ場合ガアル、又工作物ヲ設ケズトモ矢張リ此權利ヲ使フコトガアルノデアリマス、水トハ達ツテ居ル、特別ノ理由ガアルカニ就テハ、刑法學者中ニ隨分疑問ノアルコトデ、裁判所ニ於テモ適用セヌト解釋シタニシテ置キマシテモ大抵他ノ箇條ハ準用シテ差支ナイ、獨リ財團ニ關スル刑罰ノ規定ガ設ケテアル、財團ニ關スル規定ヲ準用スルト書イテアレバ刑罰ノ規定マデモ準用スルカ否宣イガ、獨リ準用デ間ニ合ハヌノガ此所ニ附加ヘマシタ十一條ノ刑罰、是ハ後ニ申上ゲ例モアルヤウニ覺エテ居ル、旁々他ノ規定ハ準用デ勤カガ、一條ノ本文ヲ斯ウ更ヘテ仕舞ヘバ準用ノ出來ヌモノハ除イテ仕舞ツタカラ、他ノ規定ハ二條ノ準用ヲ受ケテ居ル、カラテゴザイマス、第二項ニ於キマシテ「土地又ハ水ノ使用權」ト云フ字ヲ削リマシタ、サウシテ之ヲ「土地及工作物」トシマシタ、土地ノ使用權ダケハ第二項ノ中、水ノ使用權ハドコヘモ入レマセヌ、何故ニ水ノ使用權ヲ削ツタカラト云フト今マデノ法律ニ一ツモアリマセヌ、是マデアリマスルノハ鑛業法ニマレ土地收用法ニマレ水ノ使用權ト云フ字ハ殊更ニ

云フダケノ注意デ書直シマシタ、デ是タケガ鑛業法デ他ニ引イテアルノガ無イノデスガ、是ダケ引クノモ書イタ所デ手數デモ無イシ、書イタ方が明ニナツテ宜イデハナイカト云フコトデ、サウシマシタ、是マデハ我ニノ確信シテ居ル所テアリマスガ、是カラ先キノ報告ニ

至リマシテハチヨット我ニモ困^ツテ居ルノデゴザイマス、マア申上ゲテ御判断ヲ……一ツ附加ヘテ申シマスガ、總テノ修正ガ有式的ニ經ル譯ノモノテモゴザイマセヌケドモ政府ノ意見ヲ聞イテ見マシタガ、宜シイト云フ返答^ステゴザイマシタ、政府委員ノ方が我ニヨリノ多數デアタ、其多數ガ宜シイト云フ譯ニアリマシタ、ソレカラ其終リニ是カラ申上ケマスノハ甚ダ窮シテ居ル、是ハ先刻モ申シタ通り工場抵當法ノ三條デ財團ニ關スル規定ヲ準用スルト云フコトアル、然ルニ財團ニ關スル罰則ノ規定マテモ準用スルト云フコトハ苦シイ、三條ダケデハ罰則マテ之ヲ準用スルト云フヤウニハ見エナイ、ソコデ罰

十三條ニ斯ウ云フ規定モアル「自己ノ不動產ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタルヲ斯隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重ネテ抵當典物ト爲シタル者亦同シ」ト云フノハ詐僞取財ヲ以テ論ズルノアリマス、所ガ財團ニ這入シ居ル個々ノ物ガ不動產アルヤ否ヤト云フ疑が殘ル、是等ノ關係ノコトモ實ハ充分ニ調ベルコトモ出來マセズ、一番終ヒノ修正ハ先ツ此邊ヨリ外ニ昨日マテニハ善イモノが出來ナカツタト云フコトノ報告ヲシテ置キマス、自分等ニ於テモ確ニ是ガ宜イトマテニ皆サンニ御勧メヲ致シ兼ネル、ソレダケアリマス

○委員長(子爵曾我祐準君) ソレデハ是ヨリ速記ヲ始メマス
○都筑馨六君 更ニ考ヘマシタ結果、四條マデノ修正ハ先刻御報告申上ゲマシタ通り、
而シテ十一條ノ修正案ハ十一條即チ附則ノ前ニ一箇條設ケテ十一條トシテ其箇條ハ
「工場抵當法中工場財團ニ關スル罰則ハ鑛業財團ニ關シ之ヲ準用ス」斯ウ云フ事ヲ
入レルト云フ修正ニナリマス、ソレカラ先刻申シ漏シマシタカラ補シテ置キマスガ、第二條
ノ五、是ハ修正ノ號ニアリマス、原案ノ六デゴザイマス「機械、器具、車輛、船舶、牛
馬」はハ工場抵當法ノ方デハ船舶牛馬ト云フモノハ、他ノ附屬物ノ中ニ這入リマスカラ
テ此處デ書カヌデモ宜イ、餘リ細カダカラウト云フノデ削ヅタ、此方モソレト歩調ヲ揃ヘテ
削ラウト思ヒマシタガ、工場ノ方ニハ船舶牛馬ナドハ屢々關係スル場合ガアルカラ附屬物
ノ中ニ這入リ易ク人ガ感ズル、然ルニ鑛業ニ船舶ナドト云フモノハ餘程縁ガ遠イカラ、
欲シイト云フコトデ一應御尤ト思ヒマシタカラ、船舶モ削ラズ工場 抵當法トハ稍々歩調

○村田保君　十一條ノ「準用ス」ト云フコトハ、罰則ニハ大概準用ト云フコトハ餘り無イ「適用ス」ト云フ方ガイツモノ文例ニナシテ居ルト思ヒマスガ……

○政府委員（一木喜徳郎君）「準用ス」ト云フ例モ無イコトハゴザイマセヌ、府縣制、都制、選舉ノ罰則ハ衆議院選舉法ノ規定ヲ準用スルト云フコトニナシテ居リマス、ソレ

ニキッパリ適用ト云フコトヘ、チトムヅカシカラウト思ヒマス、例ヘハ「工場財團ニ屬スル物ヲ毀損シ」トアルノヲ此方デハ「鑛業財團ニ屬スル物ヲ毀損シ」ト讀マナケレバナラヌ、又「工場所有者カ」トアルノヲ「鑛業財團ノ所有者カ」ト讀マナケレバナラヌカラ、適用デハ

○村田保君 何々ノ罰ヲ適用スルノダカラ適用トスルガ宜カラウト思ヒマスネ
○政府委員（一木喜徳郎君） ドチラデモ宜イヤウデゴザイマスケレドモ、「準

コトヲ察シテ異レルモノハナガテウ思フ、此書方々ハ……「案トシテ作リマシタノハ工場抵當法中工場財團ニ關スル罰則ハ鑛業財團ニ關シ之ヲ準用ス」ト云ヒマスルト、毀損シタル場合ホカナイ、第三者ノ保護ト云フモノハ一モ無イ、抵當財團ノ保護ハ是デ出来ルカ知レマセヌガ、第三者ノ保護ガマルデ拔ケテ仕舞フ、又長イ方ノ案ニナリマスルト、工場抵當法ノ四十九條ノ末項ノ「刑法ニ正條アルモノハ、刑法ニ從フ」ト云フ箇條ヲツヒ我ニハ拔カシタモノニアリマスルカラ何ナドノ場合ニナリマスルト、疑フ生ズルノデス、「自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス」此犯罪トはトハドウ云フ關係ニナルノデアルカ、ソレカラニ三百九

存シタガ宜イト言ハレルノハ實ハ餘程考ヘネバナルマイカト思ヒマス、鐵道抵當法ノ時ニモ法文ノ書キ工合ガ違ツテ居ルト云フ所カラ、隣ノ信託ノ方ノ委員ノ御方ハ鐵道抵當法ニ依テ文例ヲ直サレタト開イテ居リマスカラ、瑣細ノ事柄デアリマスケレドモ、其關係ノ遠イト云ヘバ遠イ、近イト云ヘバ近イ、殆ド同ジヤウニ見テ居ルノニアリマスカラ、特ニ其違フ點ヲ承ハレバ、別ニ異存ハアリマセヌガ、其違フ點ヲ一應承リタイ

○政府委員(田中隆三君) 第五號ハ獨リ船舶牛馬ノミナラズ其他モ餘ホド違ツテ居ルノニアリマス、工場抵當法ニ依テ見マスト機械、器具、電柱、電線、配置諸管、軌條云々トアマテ大層列舉シテ居ルノニアリマス、ドウ云フ譯デアリマスカ、其中ノ船舶牛馬ダケノ削除ニナツテ居リマス、デゴザイマスカラ、船舶牛馬ヲコチラニ入レマシタ爲ニ工場抵當法ト

釣合ヲ失スルト云フ譯デモナイノニアリマス、ソレニ今丁度特別委員カラ御説明ガアリマシタヤウニ、鑛山ト云フテハ山ノ仕事ヲスル、ソレニ海ノ船が加ハルト云ノハ附屬物トハ言ヒニクイヤウナ……眞ニ俗ナ考ヘガ知リマセヌが起リマス、所ガ事實ニ於テハドウカト云ヘバ多クナイ例デアリマスケレドモ、或ハ三池ノ鑛山トカ別子ノ鑛山トカ云フモノニナリマスト三江ハ鑛山ノ直グ近傍、別子トナル數里離レタ所ニ附屬船舶ヲ澤山持ツテ居ルト云フ事柄ガアリマスカラ、コ、ニ殊更ニ舉ゲテ置ク方が却ツテ誤解ヲ防グヤウニナリハシナイカト思フテ居リマス

○藤田四郎君 モウ一ツ伺、テ置キマスガ、別子トカ又他ニモアリマセウガ、大キナ鐵道ヲ持ツテ居ルモノガアリマセウ、ソレ等ハ若シ載セレバ、之ニ關係シテ載センナラムモノデハ無カラウカ、工場抵當法ニ電柱電線ヲ載セテ居ル、電柱電線ハ鑛山ノ方が餘計關係ガアラウト思ヒマス、其方ハ殘シテ置イテ此方ニハ無イノハドウ云フモノカト思ヒマスガ……

○政府委員(田中隆三君) 御答イタシマスガ、丁度今ノ御質問ノ主意ニドコノ鑛山法デハ採ツテ居リマス、其點ニ於テハ工場抵當法ト主義ガ違ツテ居ルカト思ヒマス、ト云フノハ先ニ讀上ゲマシタヤウニ工場ノ方デハ必要トシテ誰ノ眼デ見テモ普通ノ附屬物トナルベキモノヲ列舉シテ居リマスガ、鑛業ノ方ハ普通ノ附屬物ハ列舉スル必要ハ無イ、ソレハ省イテ縁ノ遠イモノヲ舉ゲルト云フ主義ヲ採ツテ居ル、普通ノ附屬物ヲ列舉シヤウトシマスト鑛業法ノ五十六條ニアル數十箇舉ゲネバナラヌヤウニナルノテ大變長イモノヲ書カナケレバナラヌヤウニナリマスカラ、當然分ツタモノハ寧ロ附屬物ト云フ廣イ言葉示シテ、分リニクイ方ヲ舉ゲルト云フ主義ヲ採リマシタ

○村田保君 爆發藥ノはつぱーナドハ附屬物デセウナ
○政府委員(田中隆三君) 爆發藥ハ數年分ノ物ヲ貯ヘテ置キマスカラ無論附屬物ノ中ヘ這入ラウト思ヒス
○藤田四郎君 鑛業法ノ五十六條ノ物件ト書イテハイカヌノデスカ、差支ヘルノデスカ
○政府委員(田中隆三君) 書キ方がト變ナ書方ニナルノニアリマス
○村田保君 ソレニ矢張リ電信ガアレバ電信、れーるガアレバれーるモ皆附屬物ニ
○政府委員(田中隆三君) 左様デス、ソレデ解釋デゴザイマスカラ、或ハサウ云フ意

味ニドコモ皆通用スルカシナイカ分リマセヌケレドモ、起草シタトキノ考ハ皆御問合セノアル電信デゴザイマスカ、軌道デゴザイマスルトカ云フヤウナ物ハ皆前ノ方ノ工作物ノ方ニ入レテゴザイマス、ソレカラ現ニ出來テ居ル工作物以外ノ機械器具ヤ何カノモノハ準備シテ、毀レタトキニハ直グニ入換ヘルヤウナ風ハ寧ロ此五號ノ方ハサウ云フモノヲ重モニ言シテ、機械トカ何トカチャント設備シテ居ルモノハ工作物ニ這入シテ居リマス

○都筑馨六君 「工作場」トアルノガ「工作物」ト云フ字ノ誤リ……
○藤田四郎君 ア、サウテスカ……ソレデハ委員長、逐條御開キヲ……

○委員長(子爵曾我祐準君) 如何デセウ、小委員ヲ昨日御煩ハシヲ致シマシテ二人カラ御報告ニ就ア段々御説明モアリマシタシ、又御質問モアリマシガ、大體是ニ異議ハゴザイマセヌカ

(「宜シウゴザイマス」「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(子爵曾我祐準君) 然ラバ一二條ヲ、初メヨリ第一讀會ヲ開キマス、一條二條ヲ問題ニ致シマス……一條二條ハ宜シウゴザイマスカ

○藤田四郎君 チヨット一應讀マナクトモ宜シウゴザイマスガ……

○委員長(子爵曾我祐準君) 三條四條ヲ問題ニシマス、チヨイト是モ都筑サンニ御用スルシテ置キマス、四條ノ末項ハ文章ハ大變長クナツテ居ルケレドモガ、唯何條何條トアツタノヲ文字ニ書キ直シタダケデ、主意ハ全ク變シテ居ノメデハカ

○都筑馨六君 主意ハチットモ變ツテヨリマセヌ

○藤田四郎君 是ハモウ鑛業法ニ依ツテト云フコトハ書カヌデモ宜シイデスカ、政府委員ノ方ニ伺ツテ置キマス、此採掘權取消云々ト云フノハ鑛業法ニ依ルベキコトハ分ツテ居ルカラ法律ノコトハ言ハヌテ宜シイデスカ

○政府委員(田中隆三君) 四條ノ末項ハ是デ宜カラウト思ヒマス、尙ホ鑛業法ヲ準用スルトシマスト、ハッキリ致シマス、ケレドモ段々先ホド御報告ガゴザイマシタ通り此僅カ二箇條ノ爲ニ他ノ法律ヲ引出シテ來ナケレバナラヌト云フヤウデハ如何ニモ不便ノヤウニ考ヘラレマス

○村田保君 此朱書デ這入ツテ居リマスル「鑛業ノ出願」トスウゴザイマス、是ハチヨツト政府委員ニ伺ヒタイデスガ、鑛業權ノ出願デセウナ、鑛業ノ出願ト云フノハチツヲカシイ、鑛業權ノ出願デアリマセヌカ

○政府委員(田中隆三君) 出願ノ許可ヲ得マシテカラ鑛業權ニナリマス……

○村田保君 ハア、サウデスカ
○政府委員(田中隆三君) 左様デス、ソレデ解釋デゴザイマスカラ、或ハサウ云フ意

(速記中止)

○都筑馨六君 尚ホ氣ガ付キマセヌデアリマシタガ、補充シテ修正案ヲ出シテ置キマス
ノハ、「會社」ト云フ文字ハ商行爲デアリマセヌト「會社」ト云フ文字ハ商法ノ所謂會社デ
ナケレバイケマセヌ、鑛業ト云モノハ商行爲デナイ、斯ウ云フ今マテノ慣例解釋ニナシテ
居リマスノデ、「會社」ト云フ文字ハ甚ダ穩カデナイ、「會社」デハ動ケナイカラ「法人」ト
云フ文字ニ改メタイ「會社」ト云フ文字ヲ使シテアリマスル、其場所ハ第四條ノ五項、六
條ノ一項、七條八條九條十條ノ「會社」ト云フ文字ハ「法人」ト改メラレタ方が宜カラ
ウト思ヒマス、ソレデ獨リ此理論上是非「法人」ト改メラレル必要ガアルノミナラズ、今度
出マシタ所ノ工場法デモ「會社」ト云フ文字ガ「法人」ト改メラレマシカラ、歩調ヲ同ウス
ル上ニモ「法人」ト致シマシタ方が宜カラウト思ヒマス

○委員長(子爵曾我祐準君) サウスルト、六條ニハ「法人カ設立セムトスル」ト云フテ
宜シイデスカ

○都筑馨六君 「設立」ト云フ文字ハ如何カト思ヒマシテ實例ヲ調ベテ貰ヒマシタガ、
差支ナインミナラズ他ニモサウ云フ文字ヲ使シタ所ガアリマス

○政府委員(齋藤十一郎君) 此民法ノ三十二條以下デゴザイマスガ、此中ニハ「法
人ノ設立」ト云フ文字が數箇條ニ使ハレテアリマス

○委員長(子爵曾我祐準君) 唯今都筑サンカラ出マシタ「會社」ヲ「法人」ト改メルト
云フコトニ皆サン御異議ハアリマセヌカ

○委員長(子爵曾我祐準君) 然ラバ三條四條、是ハ最早御議論ガ無イヤウテゴザイ
マスカラ五條六條ニ移リマス

○藤田四郎君 特別委員ノ御報告通リデ異議ハゴザイマセヌ
○委員長(子爵曾我祐準君) ソレナラバ七條、八條ヲ問題ニ供シマス
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○委員長(子爵曾我祐準君) 然ラバ九條、十條
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○委員長(子爵曾我祐準君) 十一條……十一條モ御異議ハゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」報告通リ「ト呼フ者アリ〕

○委員長(子爵曾我祐準君) 然ラバ委員ノ報告通り、附則、之ヲ問題ニ付シマス
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○委員長(子爵曾我祐準君) 第三讀會ヲ引續イテ開キマス
○藤田四郎君 一二讀會ノ通り異議ナシ

○委員長(子爵曾我祐準君) 然ラバ二讀會通リニ確定イタシマス、是ヲ散會イタシ
マス

午後二時五十七分散會

出席者左ノ如シ
委員長 子爵曾我 祐準君

委員	子爵堀田 正養君	子爵大宮 以季君	子爵鳥居 忠文君
	子爵三島彌太郎君	男爵前島 密君	男爵小澤 武雄君
政府委員	村田 保君	男爵平田 東助君	古市 公威君
	藤田 四郎君	都筑 騒六君	
法制局長官	一木喜徳郎君	法制局參事官 吉村源太郎君	法制局參事官 吉村源太郎君
司法省參事官	齊藤十一郎君	農商務省鑛山局長 田中 隆二君	農商務省鑛山局長 田中 隆二君

明治三十八年二月十九日印刷

明治三十八年二月十九日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局